

## 「強風による建築物等の疲労損傷問題の現状と展望（3）」

趣旨：非常に稀な地震、台風、竜巻等による激甚災害における建築物、構造物の被害は顕著なため、設計に際しては、最大荷重に関心が向かいがちです。しかし、継続的に受けているダメージの蓄積が構造物の耐力低下につながる疲労損傷問題は、歴史的に見ても構造物の設計において重要で、忘れてはなりません。構造物の大型化、複雑化に伴って、被害要因も複雑化し、疲労損傷の蓄積がどのような形で被害となって顕在化するかの予想が困難です。安全保障や資産の保全という意味を含めて、社会資本としての既存構造物や、今後建設される新たな構造物の疲労損傷を含めた安全性のパフォーマンスを検討することが重要であるという問題意識に基づき、特に継続的で作用時間の長い、風応答による構造物・部材の疲労損傷問題を、さまざまな構造物や部位、材料について検討したいと考え、公開研究会を企画しました。本研究会は2014年、2015年に開催した第1回、第2回に引き続き、第3回目の開催です。ご関心のある方の参加をお願い申し上げます。

大熊武司（神奈川大学名誉教授）

主 催：東京工芸大学 風工学研究拠点  
（文部科学省 共同利用・共同研究拠点）

後 援：一般社団法人日本免震構造協会、  
一般社団法人日本建築学会（予定）

開催日時：2016年1月19日（火）13:00～17:30

開催場所：新宿 NS ビル会議室 3G（予定）

参加申込：事前登録制とさせていただきます。

wejurc+160119p@gmail.com に、ご氏名、ご所属、連絡先をお送りください。問合先：東京工芸大学風工学研究拠点事務局 TEL：046-242-9658



### プログラム(敬称略) (講演者都合により変更することがあります)

- |             |   |                           |
|-------------|---|---------------------------|
| 13:00～13:10 | 【趣旨説明】強風による疲労損傷に関する問題について               | 大熊武司（神奈川大学）               |
| 13:10～14:10 | 【招待講演】大型振動台実験による実大免震部材の繰返し荷重効果の評価       | 長島 一郎（大成建設）               |
| 14:10～15:10 | 【招待講演】長周期・長時間地震動によるダンパーの疲労損傷度評価法と維持管理方法 | 荻野 伸行（熊谷組）                |
| 休憩 10分      |   |                           |
| 15:20～17:00 | 一般講演(発表 20分, 質疑応答含む)                    | 発表者(所属)                   |
|             | 風応答による免震装置の疲労損傷に対する設計・維持管理計画の枠組み        | 西嶋 一欽（京都大学）               |
|             | 渦励振による部材の疲労損傷の評価方法                      | 片桐 純治, 安井 八紀（泉創建エンジニアリング） |
|             | 風応答による疲労損傷評価に必要な要因別計算法                  | 松井 正宏（東京工芸大学）             |
|             | 超高層建築物のカーテンウォール緊結部における疲労損傷率評価—等価継続時間の検討 | 寺崎 浩（大成建設）                |
|             | 長時間繰返しによる制振ダンパーの特性変化                    | 佐藤 大樹（東京工業大学）             |
| 17:00～17:30 | 討論                                      | 司会・安井 八紀（泉創建エンジニアリング）     |
|             | まとめ                                     | 吉江 慶祐（日建設計）               |